

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
307	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）	
Alcohol outlets and youth alcohol use: exposure in suburban areas. アルコール飲料の販売状況と若年者の飲酒状況について：都市近郊における検討	
執筆者	
Pasch KE, Hearst MO, Nelson MC, Forsyth A, Lytle LA	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Health Place. 2009;15:642-646	
キーワード	
アルコール飲料の販売状況、若年者の飲酒状況、アルコール飲料販売の曝露	
要 旨	
<p>目的： 自宅や学校周囲でのアルコール飲料販売店への曝露がどの程度、若年者の飲酒状況に影響を及ぼすかについて検討する</p> <p>方法： 都市近郊に在住する高校生 242 人（平均年齢 16.4 歳、男性 48.8%、白人 93.4%）を対象に、質問票により過去一カ月間の飲酒頻度、過去一カ月間の大量飲酒頻度を尋ねた。地理情報システムにより、家庭や学校とアルコール飲料販売店の距離、一定距離内におけるアルコール販売店の数を入手した。</p> <p>結果： 家庭や学校とアルコール飲料販売店の距離、一定距離内におけるアルコール販売店の数による検討では、アルコール飲料販売店と若年者の飲酒状況は関連を認めなかった。</p> <p>結論： 本研究の結果から、白人、中流階級、都市近郊に在住する若年者においてはアルコール飲料販売店への曝露は飲酒状況に影響を及ぼしていないかもしれない。しかし、今回の検討で、アルコール飲料販売店と飲酒状況に関連を認めなかった理由として、この地域はアルコール飲料販売店が少なかったこと、飲酒者が少ないこと、また、この年齢層における飲酒状況にはアルコール飲料販売店との距離や販売店の数が関与していないこと、等が考えられる。</p>	